

蔵家わいん通信 2月号

2023年下半年期のワインニュース

いつも蔵家わいん通信をご拝読頂きありがとうございます。

早速ですが、2023年下半年期の世界ワインニュースを振り返ってみましょう。

イタリアで巻き起こるモンテプルチアーノ戦争

イタリアでモンテプルチアーノにまつわる戦争が勃発しました。最近、イタリア農業省は“コルディスコ (Cordisco)”というシノニムを国立ブドウ品種登録簿に再登録する要請を受け入れました。この法令は、「アブルツォ州内で生産されるワインにのみ“モンテプルチアーノ”という呼称を使用できる」というアブルツォワイン協会の主張を支持するものであるようです。これは、歴史的にモンテプルチアーノが栽培され、現在も約2,200haの畑があるマルケ州のような地域でも使用が禁止されることを意味します。モンテプルチアーノのシノニムとしての“コルディスコ”という用語は、かつてイタリア国立ブドウ品種登録簿に存在していましたが、1980年代末に紙の登録簿からデジタル版に移行する際に消滅しました。世界的に馴染みのないコルディスコというシノニムの使用は、消費者やアブルツォ州以外の生産者にとって混乱や不利益を招くのではないかと危惧もあり、今後どのように進展を見せるか動向に注目が集まるでしょう。



世界のワイン生産量、1961年以來の低水準に

国際ブドウ・ワイン機構 (OIV) は、2023年の世界のワイン生産量は、産地が異常気象に見舞われたことから、1961年以來の低水準となるとの予測を発表した。OIVによると、世界のワイン生産量は昨年から7%減の2億4410万ヘクトリットルの見込み。「早霜や豪雨、干ばつなどの異常気象がまたもや、世界のブドウ生産に大きな影響を与えた」と説明した。南半球の多くの生産地では、生産量が大幅に減少した。オーストラリア、アルゼンチン、チリ、南アフリカ、ブラジルでは生産量が10~30%減少した。生産量1位だったイタリアは12%減で世界の生産国トップから転落。着実に生産を伸ばしたフランスが1位となった。スペインは14%減、過去5年平均からも19%減となったが、3位にとどまりました。



疫病に悩まされるヨーロッパのブドウ畑

2023年は、過剰な日照に襲われるより遥かに悲惨である聖書に出るような大洪水がオーストリア、クロアチア、フランス、イタリア、スロベニアのブドウ畑に深刻な影響を与えました。多くのワイナリーはべと病の蔓延により、2023年の収量が大幅に減少すると予測しています。一方ジョージアでは9月上旬にカヘティ地方を中心に4,600ha以上のブドウ畑が雹の被害を受けています。ポルドーも今年は荒れました。暖かい中での健全な開花となった成長シーズンの始まりは、多くの生産者に収量も熟度も申し分ないヴィンテージを期待させました。ですがその後、暑さと大雨が重なり真菌の病気が大発生し、あちこちで胞子が飛散するシーズンを迎えました。



【お問い合わせ先】和・洋酒専門店 **リカーポート蔵家**

〒194-0037 東京都町田市木曽西1-1-15 TEL: 042-793-2176 FAX: 042-793-2177

E-Mail: machida@kura-ya.com 営業時間: 9時30分~20時※日のみ19時閉店

<月曜定休日> **KURAYA**

